

2024年7月21日 聖霊降臨節第10主日礼拝次第

主日礼拝

前奏 (黙想)

招きの言葉 列王記上17章14～15節(旧約562頁)

讃美歌 149(わがたまたえよ)

主の祈り <C>(讃美歌93-5)

詩編交読 詩68編1～11節(交読詩編75頁)

聖書 ローマの信徒への手紙14章10～23節(新約294頁)

祈禱

讃美歌 473(世界の望みなる主よ)

説教 「もはや愛に従って」田中雅弘牧師

讃美歌 475(あめなるよろこび)

信仰告白 使徒信条(讃美歌93-4)

献金

讃美歌 88(心に愛を)

派遣祝福

後奏 (黙想)

報告

※讃美歌は原則として全節を歌います。

主の祈りC(讃美歌21 93-5-C)

司式者) 天の父

一 同) わたしたちの父よ、

み名があがめられますように。

あなたの国が来ますように。

みこころが天と同じく地でも行われますように。

きょうのパンを きょうお与えください。

わたしたちの負い目をおゆるしてください。

わたしたちも負い目をゆるし合います。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

かえって悪からお救いください。

国も力も栄えも、限りなくあなたのものです。アーメン

聖書 ローマの信徒への手紙14章10～23節

0 それなのに、なぜあなたは、自分の兄弟を裁くのですか。また、なぜ兄弟を侮るのですか。わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。

11 こう書いてあります。

「主は言われる。

『わたしは生きている。

すべてのひざはわたしの前にかがみ、

すべての舌が神をほめたたえる』と。」

12 それで、わたしたちは一人一人、自分のことについて神に申し述べることになるのです。

兄弟を罪に誘ってはならない

13 従って、もう互いに裁き合わないようにしましょう。むしろ、つまずきとなるものや、妨げとなるものを、兄弟の前に置かないように決心しなさい。14

それ自体で汚れたものは何もないと、わたしは主イエスによって知り、そして確信しています。汚れたものだと思うならば、それは、その人にだけ汚れた

ものです。15 あなたの食べ物について兄弟が心を痛めるならば、あなたはもはや愛に従って歩んでいません。食べ物のことで兄弟を滅ぼして

はなりません。キリストはその兄弟のために死んでくださったのです。16

ですから、あなたがたにとって善いことがそしりの種にならないようにしなさい。17 神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和

と喜びなのです。18 このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されます。19

だから、平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか。20 食べ物のために神の働きを無にしては

なりません。すべては清いのですが、食べて人を罪に誘う者には悪い物となります。21

肉も食べなければぶどう酒も飲まず、そのほか兄弟を罪に誘うようなことをしないのが望ましい。22

あなたは自分が抱いている確信を、神の御前で心の内に持っていなさい。自分の決心にやましさを感ぜない人は幸いです。23 疑いながら食べる人は、確信に基づいて行動して

いないので、罪に定められます。確信に基づいていないことは、すべて罪

讃美歌149番

- 1 わがたまたたえよ、主なる神を。
内なるすべては み名をあがむ。
- 2 わがたま忘るな、主のはからい。
たえなる恵みは 主より来たる。
- 3 わが罪もとがも、すべて赦し、
悩みと病を 取り去りたもう。
- 4 朽つべきいのちを 主はあがない、
あわれみの冠(かむり) あたえませり。
- 5 疲れたるものに たけき鷺の
力といのちを みたしたまわん。

讃美歌88番

心に愛を 豊かにみだし
日ごとのわざに つかわしたまえ

讃美歌57番

- 1 ガリラヤの風薫る丘で
人々に話された
恵みのみ言葉を
わたしにも聞かせてください。
- 2 嵐の日 波たける海で
弟子達をさとされた
力のみ言葉を
わたしにも聞かせてください。
- 3 ゴルゴタの十字架の上で
罪人を招かれた。
救いのみ言葉を
わたしにも聞かせてください。
- 4 夕暮れのエマオへの道で
弟子たちに告げられた。
命のみ言葉を
わたしにも聞かせてください。

讃美歌475番

- 1 あめなるよろこび 聖なる愛よ、
こよなくとうとき わが君イエスよ、
救いの恵みを たずさえくだり、
おののくこの身に 宿らせたまえ。
- 2 聖霊の息吹よ、いま吹ききたり、
悩めるところに いこいを賜え。
われらをあわれみ、罪より放ち、
あふれるよろこび 受けさせたまえ。
- 3 ちからのわが主よ、来たりとどまり、
われらの心に いのちを賜え。
あしたに夕べに 祈りをささげ、
救いのみわざを 歌わせたまえ。
- 4 われらも新たに 造りかえられ、
きよめを受けつつ、栄えにすすみ、
み国にいたりて み前に伏す日、
み顔のひかりを 仰がせたまえ。